が、大分お悪いやうなお電報でし 『何ですか委しい事は存じません 玄關の敷臺に立つた姉様のうる おう頭ちゃん! 彌生はまた一

つ、そして其度斯う云つて訪ねま相に、息を切らして、折々呼び止相に、息を切らして、折々呼び止相に、息を切らして、折々呼び止れる。と流石に滑生も氣の帯になる。と流石に滑生も氣の帯にない。といるという。 いけません! 「ね婆や、 兄様はどんなのだらう

小短 武篇 永代美知代 報

居られません。 は内避にね、門前の婆やにもキト『兎に角奥へ、そしてお祖母様に『兎に角鬼へ、そしてお祖母様に てもよると泣き聲をたてないでは のつもりにしてあるんだから、 のかも知れない

ど、もしやしたら兄様は死んでる

キトクと云へばもう駄目と思

弱生はたい泣き伏しまし

しても悲しくて、さうした言葉を

12



ればなられと思ひましたが、どう つてお祖母様をおなぐさめしなけ お祖母様はオイ~ 様がお訊ねなすつた。 走つた。 でもお 『おゝお鯖りか、兄樣が惡うての『いゝえ彌生です、お祖母様!』 一誰、不惠さんかい!」 確は何とか一時の氣安めを云 彼方向きにおよつてゐるお 祖母樣……」 お泣きなさ 祖母

から今朝お手紙が届いてるんです」でしまる。彌生はハッとして奥へした事は解らないんだけれど、萬『えこえすぐ、お祖母様をたのみです。これでは、「ないないからつて、母様、胸下駄の音が、第に聞えなくなっなさるといけないからつて、母様、というないが、第一次では、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない、「ない、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない、」 確とはよっと歌戯きました。 これとが様のお胸にとりすがつて 『泣かないで、ね、まだハッキリ 5

來て頂戴ね いたまんま、 を合せないやうに、 成るべく早く歸つて わざとうつむ